事業報告概要書（公表版）

1　基本情報

施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
多摩丘陵グループ	（指定管理者名）公益財団法人　東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。
指定期間	
R５．４．１　～　R10．３．31（５年間）	

2　施設名

長沼公園、平山城址公園、小山田緑地、小山内裏公園、桜ヶ丘公園

3　収支（単位：千円）

項目		令和７年度 金額	令和６年度 金額	令和５年度 金額
収入　計		487,835	631,302	403,329
内訳	指定管理料	487,835	631,302	403,329
内訳	利用料金	0	0	0
内訳	その他収入	0	0	0
支出　計		494,955	634,756	402,496
収支差		△7,120	△3,454	833

公園別支出額

長沼公園：84,619　　平山城址公園：26,791
小山田緑地：133,959　　小山内裏公園：103,534
桜ヶ丘公園：146,052

4　管理運営の概要

○里山情報連絡会を発展させた対話の場として、「TOKYOつながる里山サミット2025」を学識経験者と協働して企画・開催。延べ1,061人が来場し、基調講演、活動紹介・パネルディスカッションを通じて、里山の自然・文化の価値や課題を共有。さらに里山トークショー、パネル展示、ワークショップ等を組み合わせることで、里山の楽しさを入口に、幅広い関心喚起を図り、里山の自然・文化を継承していくための連携基盤を構築した。
○サミット開催後の23日間を「里山サミットWEEK」と位置づけ、デジタル版里山訪問スタンプラリー、パネル巡回展示、各公園の連携イベントを実施。スタンプラリーは271人が参加した。特典は竹林整備と関連付けて、バンブーファイバー製のカトラリーセットを採用。多摩丘陵の里山・公園の魅力を発信と周遊促進につなげた。
○小山内裏公園と桜ヶ丘公園の周年イベントを発展させ「ハロウィンキャンドルナイトコンサート」・「桜ヶ丘の灯り」を開催。夜間の公園活用として竹灯籠を活用し、広場に温かい光の演出を施した。多世代参加・交流できる構成としたことで、両イベント前年比2.2倍以上の参加者となった。（小山内裏、桜ヶ丘）
○多摩大学・京王観光株式会社・多摩市・稲城市・八王子市・日野市・町田市から構成される「タマリズムプロジェクト」に参加。ドラフト会議で連携することとなった学生団体とともに、「たまきょうりゅう」のARフォトフレームを制作し、日比谷ガーデニングショー内のブースにて来場者が参加できる撮影会を開催した。

5　管理状況

①維持管理

○定期の樹木点検に加えて、緊急樹木点検を実施することで倒木の事前抑止、安全安心の公園づくりに繋がった。（全公園）
○竹林の拡大防止のためのタケノコ除去、竹伐採等の竹林整備を実施し、作業時に出た発生材は四季折々のイベントで活用し里山の環境教育に繋げた。（長沼、小山田緑地、桜ヶ丘）
○年間を通じてボランティアと協働で、モニタリング作業を実施した。それを元に希少種の生息環境整備のための選択性除草、マーキング等の作業を実施し、ニュースレターにより発信することで公園の魅力アップに繋げた。（全公園）
○ホタルの最大発光頭数は前年比157％（小山田緑地）190％（小山内裏）の増加及びR４から徐々に増加165％（桜ヶ丘）と好結果であった。これは、笹刈り等の継続作業等を通年で行ったことによる成果が表れたため。
○タマノホシザクラの保全を行うにあたり、樹木医のアドバイス、外部の植物専門家の知見を反映させて、支柱の設置等の処置、周辺の生育環境整備をを実施した。（小山内裏）
○R５．６年の大雨時に大きく土砂の流出のあったツタン池付近法面において、仮復旧の大型土のうを、本復旧としてカゴ枠工法による対策工事を実施することで大雨時の新たな土砂崩壊に備え、利用者及び近隣施設への安全確保に繋がった。（小山田緑地）
○公園ボランティア及び神代植物公園多様性センターと連携し、希少植物のマーキングや選択的除草、育成・増殖を行うとともに、外部専門家の助言を得てサンクチュアリ内の環境維持・改善を図った。（小山内裏）
○新たに東京農工大学との両生類の調査、桜美林大学との昆虫の調査を実施。調査結果をサービスセンター内でパネル展示することで利用者に向けて生物多様性の普及啓発を行った。（小山田緑地）

②利用者への対応

○長沼公園のパークミーティングでは、R６年度に課題となった公園利用者車両の民家への迷い込み防止策として東京都、八王子市と調整し、市管理地に案内看板を２箇所設置。今年度は絹ヶ丘一丁目自治会とは山火事を想定した初の合同防災訓練を実施。（長沼）
○東京きのこ同好会と連携し、観察に適した時期にキノコ観察会を開催。秋の観察会では参加者が図鑑を用いて、丘陵地レンジャーと共にキノコの種の同定作業を行い、参加型の学びの場として高い満足度につながった。（長沼、桜ヶ丘）
○プレミアムサンクチュアリツアーでは通常立ち入りが出来ない区域のサンクチュアリの中で参加者による東京都レッドデータブックで絶滅危惧種IB類のミズニラの保全作業を体験しながら解説を行った、生育環境の保全への理解と親しみを深める機会となった。（小山内裏）
○これまでの日中開催から夏季の猛暑対策として、早朝の自然観察会を開催。近隣地域だけではなく、都内区部からも２人参加もあった。昆虫が土中や梢に隠れる前の時間帯に観察できるなど、涼しい早朝ならではの体験が好評を得た。（小山内裏）
○コロナ禍により開催できていなかった「どんぐり喫茶」について、保健所および運営ボランティアと調整のうえ10月より再開した。多摩ニュータウン地域の高齢者の居場所づくりとしての役割も果たしている。（小山内裏）
○令和５年11月から継続整備しているひだまりのデッキ付近ため池において、繁殖に成功したトウキョウサンショウウオの幼体観察を取り入れたガイドツアーを八王子市と連携して開催。八王子市職員による外来種の解説や、丘陵地レンジャーによる保全取組の紹介を通じて、参加者に保全の意義を学んでいただく機会となった。（平山城址）

6　利用者アンケート結果

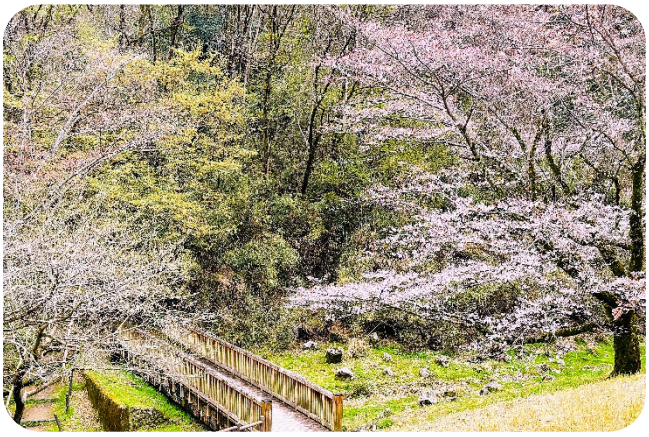
実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
長沼公園	4.8	4.6	4.8	4.6	4.7
平山城址公園	4.7	4.6	4.7	4.7	4.6
小山田緑地	4.8	4.9	4.7	4.8	4.8
小山内裏公園	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9
桜ヶ丘公園	4.8	4.7	4.7	4.7	4.7

7　入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
長沼公園	58,182	課題共有から実施まで主導し、地域連携強化と利用者満足向上の両面で成果を生み出した。
平山城址公園	24,754	ボランティア協働により水辺環境の学習機会を創出し、生物多様性への理解促進に貢献した。
小山田緑地	427,143	多様な体験企画と連携活動を通じ、里山文化継承と環境教育の充実に努めた。
小山内裏公園	616,661	希少種保全と体験型交流を推進し、多世代が集える居場所づくりにより公園の利用価値向上。
桜ヶ丘公園	241,339	大学や児童館など多様な主体と連携し、交流型企画を通じて地域のにぎわい創出に貢献した。
合　計	1,368,079	

長沼公園



所在地：八王子市長沼町・下柚木・堀之内
／開園面積：36.70ha

雑木林と沢が織りなす自然の楽園
四季の美が息づく丘陵地

高まる山林火災リスクに先行した初の地域連携防災訓練

NEW 自治会と連携した初の合同防災訓練

絹ヶ丘一丁目自治会は、「公園における山林火災発生」について関心が高い。火災が発生した際の、初動対応手順と自らの命を守る行動を学ぶため、乾燥期を避け８月に**地域連携防災訓練を初めて実施**した。放水訓練については、消防署員と消防団員が放水器具の器具劣化防止方法や高水圧対応など実践の際の注意点を指導。応急手当については、女性防火協会班員と救命講習受講済職員が三角巾等を使って指導。公園管理者・消防関係者・近隣住民の役割が明確になったことで**参加者からは「非常に有意義な訓練であった」との評価**を得た。継続的に改善を行いながら**次年度以降も合同防災訓練を実施する方針を確認**した。

住民からは「いざという時に対応できる自信がついた」との声をいただいた

隣接施設との連携で実現、丘陵地公園の魅力発信

NEW 美術館と初連携した春祭り

来園促進のため、公園に隣接する**峠の小さな美術館と初めて連携**して4月から5月に**春祭りイベントを実施。**職員による動植物観察ガイドと美術館による体験型企画を組み合わせ、観察と体験を合わせた構成とした。学びと楽しみの双方の魅力を伝え、**４日間のプログラムで延べ163人が参加。**次年度以降も継続実施に合意。

長沼公園春祭り（４日間）参加者　延べ163人

NEW 協働で広がる、里山の魅力

園内にサービスセンターが無いため、公園情報の提供や利用者への案内の充実が課題である。春に連携した峠の小さな美術館の協力により、里山サミットWEEKに合わせた**公園紹介パネル展を11月実施。**また、暗くなってから美術館の灯りを頼りに寄った方が、迷わず駅まで帰れる**「お帰りルートマップ」**を作成し、美術館に常設化した。

峠の小さな美術館でのパネル展示の様子

地域とともに課題解決から環境問題まで対応 ― 長沼公園パークミーティング

NEW 新たな自治会とパークミーティングで課題解決

地域課題解決を目的に、**新たに絹ヶ丘一丁目自治会とパークミーティングを実施**。５月と６月の打合せを通じて課題を共有し、**山林火災を想定した初の合同防災訓練の実施を決定**。訓練計画策定の協議を通じ、地域防災力向上に寄与した。

絹ヶ丘一丁目とのパークミーティング

NEW 景観に溶け込む看板で車両の迷い込みゼロへ

昨年度の長沼町会では、公園利用車両が私有地に迷い込む課題に対し、市と協議して**看板を町内２箇所に設置した。**交差点には視認性・耐候性を考慮した公園案内図を追加。**迷い込み報告はゼロとなり、住民や町会から感謝の声**を頂いた。

景観に配慮した案内板

Update 共に守る、町の環境 長沼町会との連携強化

宅地化に伴う環境保全と公園利活用をテーマに意見交換を実施し、八王子市手配の学識者も参加。住宅地でのホタル減少を課題として、**公園の自生地整備ノウハウ**を共有したことで、住民の姿勢が前向きに転じ、**定例会を設けることが決定した。**

長沼町とのパークミーティング

秋に深める学びと交流 ― きのこ観察会で広がる自然の魅力

Update 図鑑を片手に議論、参加型観察会

暑さ対策として夏開催から秋開催に変更。参加者と講師が協働で**種の判別を進める参加型形式の同定会を採用し、交流と学びの場を創出した。**複数回の事前下見で観察ルートを工夫し、記録的な猛暑と少雨の影響下でも当日は50種を確認。アンケートでは「また参加したい」「きのこ好きの人たちと話ができ、とても楽しめた」等、専門家との協働による質の高い学びに**全員から肯定的な意見を獲得**し、次年度以降も継続開催を正式決定した。

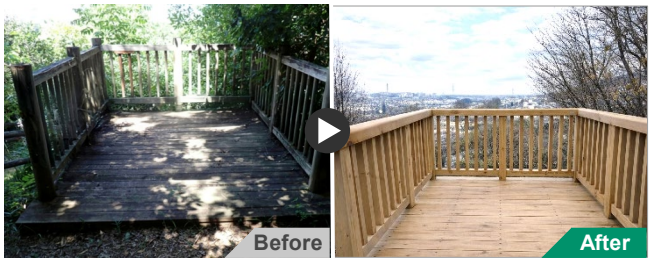
未知のきのこに出会う魅力を満喫

参加型同定会は大盛り上がり

安全性向上と景観・環境保全の取組

Update 安心して景色を楽しめる展望空間の再生

経年劣化が進行し、これまで小規模修繕により応急処置を行ってきた栃本尾根北側**展望台デッキの安全性および施設機能の確保**を目的に、既存デッキを撤去し新たに設置した。併せて、**周辺樹木を適切に剪定**し、市街地を望む眺望を回復。来園者から「安全で快適に展望を楽しめるようになった」との評価を得た。



Update 安全確保と周辺環境への配慮

砂質で崩れやすい北側斜面際の土砂崩落防止・流出対策補修による安全確保を実施。さらに竹林拡大抑制策として**国土交通省新技術活用促進システム（NETIS）登録工法の防竹・防根シートを長さ28m、深さ50㎝で新規に試行設置**。土砂流出および竹根侵入の抑制効果が認められ、隣地住民から感謝の声を得た。

（公財）東京都公園協会

平山城址公園

季節がめぐるたびに
新しい景色に出会える丘

所在地：八王子市堀之内／開園面積：12.00ha

里山の水辺で、命の営みと生態系のバランスを体験的に学ぶ

NEW トウキョウサンショウウオを守る

トウキョウサンショウウオ等の生息・繁殖環境を保全するため、昨年度に丘陵地レンジャー指導のもと市民参加による生息地整備を実施。その結果、**整備したため池で幼体を確認できた。**また、ガイドツアーの中で生息状況や環境保全活動の重要性を説明し、アンケート結果から**生物多様性保全の大切さ**を広めることができた。

トウキョウサンショウウオの幼体観察

NEW 参加者2.5倍！里山の恵みを未来へ

地域住民の里山環境への理解を目的に、水生生物の調査・観察、ため池の畔固め、流路の落葉かきを丘陵地レンジャーの指導のもと協働で12月に実施。**参加者は前年比2.5倍**となり、事前に土嚢の準備や年齢に応じた作業割り当てを行ったこともあり、**アンケートでは満足度100％と評価**を得て、自然環境保全の重要性を伝えた。

土嚢で作業エリア準備

イベント参加者による整備

Update 池の生態系と外来種の実態を知る

子どもたちの**自然体験の機会減少を踏まえ**、自然とのつながりを育むことを目的に、八王子市と連携し、５月に**保育園と自然体験活動**を実施した。宮嶽池周辺で生物・植物の観察を行い、アメリカザリガニやウシガエル等の外来種が生態系に与える影響を説明。子どもたちが生き物に触れる体験を中心に構成し、生態系のつながりや環境問題への理解に繋げた。その結果、**命の大切さや自然保全の重要性を楽しく学び**、保育士から感謝の声をいただいた。活動後の６月のパークミーティングには、参加した保育園以外に幼稚園２園が参加。平山城址公園は子どもにとって水環境の動物や植物等、自然の学びが多く、地域と公園を結びつける環境として事業の自然体験活動の継続を望む声が寄せられた。

ザリガニ釣れて大興奮

水辺の植物観察

パークミーティング

魅力がつながるマイクロツーリズム

Update ２つの公園を散策、自然の魅力３倍発見

長沼公園・平山城址公園・フィールドミュージアム多摩丘陵を結び、約６kmを歩いて動植物を観察するガイドウォークを５月と11月に実施。職員・ボランティア・大学教授が**春と秋の異なった植物を解説**し、公園と大学敷地を一体的に学べる内容とした。**季節差や野草解説が好評**で、生物多様性保全への理解が促進された。

フィールドミュージアム多摩丘陵にて珍しいエビネ観察の様子

Update 多くの生命を観る−充実した自然観察

多摩丘陵の植物や希少種に対する保全意識向上を目的に、５月に**八王子市と連携し、平山城址公園から宮嶽谷戸等をつなぐ約６kmのガイドツアーを実施**。ツアーでは希少種情報の取扱いや、丘陵地レンジャーとボランティア・市職員の協働解説で里山管理の理解が深まった。**地域一体の環境保全の取り組み**に感謝の言葉をいただいた。

池の中にいる生物を観察している様子

Update 知識を深め見分を広げる

３月に歴史に造詣が深い講師の解説を通じて、**地域の歴史的資源を学び、自然以外の公園の魅力を伝える**ことを目的に、ガイドウォークを実施した。源平合戦で知られる源氏の武将・平山季重の居城跡や、ゆかりの社寺を巡り、平山城址公園駅から長沼公園近くの野猿街道まで散策した。講師の豊富な知識に基づく解説により、**多摩丘陵の変遷や身近な地域の歴史**へ関心が高まり、参加者から理解が深まったとの感想が寄せられた。

講師による歴史の説明のようす

パートナーシップで公園を利用しやすく安全と魅力をあげる

NEW 憩いの場の安全・安心を常に提供する

集中豪雨で終わりと始まりの広場ベンチ脇の**斜面が崩落**し安全確保が必要となったため、専門業者により**板柵土留め工法で補修**。さらなる大雨に備えた耐久性を重視した階段状の土留め施工により斜面が安定し、**来園者が安心して利用できる**環境を確保した。

崩れた斜面を強固に補修し安全を確保

Update 眺望と環境に配慮した管理

展望広場の**眺望が樹木の生長により遮られていた**ため、樹木点検員が調査の上、業者により**必要な剪定を行った**。樹木ごとの状態を精査して景観と環境に配慮した結果、**奥多摩や秩父方面の山々が眺望できるようになり、来園者の好評、魅力向上**につながった。

樹木による展望不良（剪定前）　山々が眺望できるように（剪定後）

小山田緑地

良好な里山景観の残る多摩丘陵の奥座敷

所在地：町田市／開園面積：44.5ha

「里山ってどんなとこ？」答えを体験していただく取り組み

Update 里山を感じる素材を使った誰でも楽しめるクラフト教室 ～里山SDGs教室～

自然の素材や発生材を有効活用し**気軽に里山を楽しめる機会**を提供するとともに、**里山の循環利用**について伝えることを目的としたクラフト教室を実施。木材アクセサリーづくり、どんぐり工作、ミニ門松づくり等、**発生材を活用したクラフト体験**を行い、従来の単日開催ではなく、夏休み期間および11月・12月の開催期間中は**好きな時間に参加できる常時体験型の方式へアップデート**した。**工作内容をあえて単純化**することで、**すきま時間でも気軽に体験**できるようにし、**幅広い来園者が参加しやすい内容**とした。また、材料となる竹材づくりでは、高校のインターンシップ実習生２人が伐採および裁断作業を実施し、クラフト教室の材料を作成した。**参加者は382人となり前年比200%と大きく増加**。発生材を活用したことにより環境に配慮した維持管理を実践しつつ、季節ごとの景観と体験機会を来園者へ提供することができた。

職員が利用者一人一人に対応して作っていく。

発生材を加工するインターンシップ生

Update 里山文化の継承 ～田植え～

生物多様性豊かな環境や里山文化を後世に継承するため、近隣小学校２校、農業委員、ボランティア、町田市青少年健全育成委員と連携し、**１年間を通じて稲作・畑作の体験プログラムを実施**した。地域と連携した継続的な取組により、**里山環境を学ぶ環境教育の場**を提供することができた。

稲作参加者452人

Update 里山の暮らしを知る ～収穫のお祭り～

収穫祭とりょくいちを11月同日に開催した。収穫祭では園内で採れたもち米を使った餅等の振る舞いを行い、りょくいちでは**稲わらの正月飾りや発生材の竹を使った竹炭等の提供**を行った。地域資源を活用した体験を通じて、**多くの方に地域の伝統文化や暮らし**を楽しんでもらう機会を提供することができた。

収穫祭・りょくいち参加者405人

多摩丘陵の里山に触れる機会の創出

NEW 多摩丘陵の里山を巡るスタンプラリー

11月の「TOKYOつながる里山サミット」の関連企画として、**多摩丘陵の里山・公園の魅力に触れていただく**ことを目的に、デジタル版スタンプラリーを3週間開催。多摩市、八王子市、日野市、町田市内の里山関連施設10か所を周遊する構成とした。**景品は竹林管理イメージのバンブーファイバーのカトラリーセット**を採用。**参加者271人、特典利用率は93％**と高く、里山の周遊促進に成果を上げた。

スタンプラリー参加者271人

生物多様性の保全、違う目線での多様性保全活動

Update 調査結果をパネル展示し公園魅力アップ

研究・調査フィールドとして活用。東京農業大学との植物調査、**新たに東京農工大学**との両生類の調査、桜美林大学との昆虫の調査を実施。調査結果は保全活動の参考になり、**サービスセンター内でパネル展示**することで利用者へ向けての**生物多様性の普及啓発**となった。

丘陵地レンジャーと学生の合同調査「アカデミックチャレンジ」

Update 希少種保全と普及を担う取組

自然観察会の開催２回、近隣小学校への生物多様性の普及啓発活動２回。セルフガイドシート植物通年版の作成等、**多岐にわたる生物多様性に寄与する活動を実施**。継続実施中の生育域外保全６種類、モニタリング調査19種類を維持管理作業に反映させることで**希少種の保全と普及啓発**につなげることができた。

丘陵地レンジャーによる希少種のモニタリング

安全と良好な景観を守り続けるために

Update 園内樹木の適切な管理

全園の園路沿いを中心とした樹木点検を笹刈しながら実施。合計588本にタグ付け点検、２本の危険木を処理し、**利用者の安全・安心を確保した。**あわせて生育不良の樹木を撤去することで、**緑地の良好な景観形成**を図り、緑地の質・価値を向上させた。

樹木点検

NEW 施設補修による安全・安心の確保

これまで大雨時の土砂流出があった箇所にカゴ工による補修を実施し、**園内外の安全・安心確保に繋げた。**また、利用者の**安全・安心・快適性向上**のため、ニーズを考慮した施設補修を実施。

上段カゴ工による補修・下段野外卓補修

小山内裏公園

地域の環境資源が結ぶ人と自然

所在地：町田市、八王子市／開園面積：45.92ha

自然体験プログラムで希少種保全の理解向上と多様な学びを育む

NEW サンクチュアリで保全活動を体験

希少種が生息するサンクチュアリ区域で、生態系の変化や**保全の重要性**を伝えるために、季節ごとに4回のサンクチュアリツアーを実施。7月に実施したプレミアムサンクチュアリツアーでは**初めてミズニラの保全作業を設け**、丘陵地レンジャーと導水路づくり等**体験型の内容**を実施。熱中症対策グッズを参加者へ配布し、暑さ対策も行った。アンケートでは保全活動体験への好評が多く、継続実施していく。

事前に希少種には目印

保全活動の様子

Update 地域の次世代へ向けた体験の提供

ナラ枯れが進む雑木林の再生を理解してもらうため、南大沢小学校４年生が丘陵地レンジャーと**ドングリの採取・植栽と稚樹の移植を行った**。事前学習を踏まえて、ドングリ拾いからポット植栽、稚樹の採取と圃場への植栽までの一連の流れを体験できるよう工程を組み、丘陵地レンジャーが安全に作業ができるよう指導した。活動を通じ、**保全作業の体験と生物多様性学習機会**を提供した。

キッズレンジャー体験(ドングリ植栽)
児童13人　先生２人

里山と人をつなぐ公園の新たな取組

NEW 里山資源の再活用

里山資源の循環利用を身近に体験してもらうため、里山サミットWEEKに合わせてクラフト教室を実施。12月のクリスマスコンサート時に**公園の発生材を活用したリースと松ぼっくりツリー作りを行った。**材料の種類を充実させ、12人が参加。春に実施したクラフト教室とあわせ、**年間参加者152人となり前年度比178％**となった。

クリスマスリース制作

ミニクリスマスツリー

Update 季節のコンサートと交流の場づくり

公園を憩いの場、**夜間活用と多世代交流を促すため**、地域の演奏家とボランティアと協働で季節コンサートを開催。**開始を17時へ前倒し**し、竹灯籠や公園で育てたひょうたんランタンで会場を演出。**参加166人と前年の2.2倍。**また、約５年間休止していた**憩いの場の「どんぐり喫茶」も10月に再開**。多世代交流の居場所を作った。

ハロウィンキャンドルナイトコンサート
観客166人　出演者６組54人

ミニコンサート・どんぐり喫茶
10月７人 11月14人 12月13人

地域との連携による公園事業の推進

Update 災害弱者に配慮した防災プログラム

地域の防災意識向上を目的に、消防署と連携し里山広場で防災イベントを３月に実施。**防災パネル展示、消火器、火起こし**を行い、**要配慮者への対応訓練として車いす介助体験を実施**。近隣自治会を通じ**子育て世代にも周知**し、幅広く防災啓発を図った。

車いす介助体験

防災パネルを見入る参加者

Update 地域に根差した公園管理

「高齢者が増えたのでベンチを増やして欲しい」との**パークミーティングでの意見を受け**、園内発生材を活用し、尾根緑道に直営で製作した**丸太ベンチを設置**。高さも見直して**安全快適性を向上**。また、展望広場の看板を**UDフォント化し、見やすさを向上**した。

ご意見・提案を聴取

発生材で作成中

希望場所に設置

様々な視点・工夫を取入れた維持管理

Update 剪定枝等の発生材の活用

園内で発生した**シラカシの剪定枝**を多摩動物公園へ提供し、**5.8t相当の処分費を削減。**枝葉を圧縮せず、質と量のある発生材は**アジアゾウ・アフリカゾウ等**をはじめとした動物に**給餌**され、**公園資源を有効活用**した結果を掲示板等で来園者に周知しアピール。

Update タマノホシザクラの環境整備

過去に親木の株元から移植した**タマノホシザクラについて**、職員による定期点検に加え、樹木医による診断結果、外部専門家の意見を踏まえ、生育環境整備の草刈等を実施。また、**挿木による育成及び増殖の試み**も行い、次世代に向けた準備をすることができた。

安全と多様な環境に配慮した公園管理

Update 園内樹木の安全・安心

尾根緑道ほか園路沿いを重点的に樹木点検を行い、**782本**にタグ付けし図面作成。危険木**7本**を処理し、**安全確保と良好な樹林環境の維持**につなげた。

念入りに樹木点検を実施

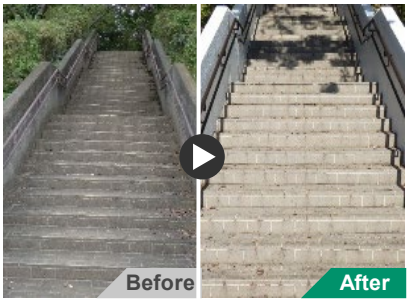
Update 連携による増殖の試み

ボランティアや神代植物公園植物多様性センターと協力し、希少植物の保全作業を実施。外部専門家の助言を得て**サンクチュアリ内の環境維持・改善**を図った。

個人ボランティアと希少植物の囲い設置

NEW 補修による施設長寿命化

草地広場の階段について、経過に伴う塗装劣化や剥離、汚れが見られたため、洗浄および塗装を実施し、**劣化防止と施設の長寿命化及び景観向上**につなげた。



桜ヶ丘公園

桜咲く里山、明治の足跡
自然と歴史が響きあう憩いの公園

多摩市／開園面積：33.99ha

来場者2.5倍！連携拡大をした竹林対策を起因とした公園活用イベント

Update 竹間伐材と光でつなぐ、多摩地域の夜 ― 桜ヶ丘の灯り

令和６年に実施した、**竹林整備と間伐材の活用を目的とした竹灯籠イベント「桜ヶ丘の灯り」は、好評のため継続し８月に実施**した。昨年度に引き続き、多摩大学や多摩レクリエーション協会準備会等と連携して竹林の伐開や竹灯籠約90本の製作等を行った。竹灯籠への絵付けは、児童館で親子向けワークショップとして実施し、保育園では保育時間内での活動として協力いただいた。事前広報は、駅でのチラシ3,000枚の配架やSNS発信を行った。**X（旧Twitter）では25,000以上のインプレッション**を獲得。また、イベント当日は明るい時間からも会場で楽しめるように、**15時半から、竹の絵馬づくりやクイズラリー等の新たなプログラムを実施**した。当日は点灯前から滞在する来場者がおり、**参加者数は昨年度比約2.5倍の500人**となった。地域団体と共に進めることにより、地域のイベントとして定着してた。

大勢の来場者で賑わう竹灯籠ライトアップ会場

学生提案の竹の絵馬づくりが年齢問わず人気

当日ワークショップ（3回）は満員御礼

里山の自然・文化を未来につなげるサミットを開催

NEW 「TOKYOつながる里山サミット2025」開催

里山情報連絡会を発展させた情報公開の場として、多摩丘陵に関わる関係団体が一堂に会する「TOKYOつながる里山サミット2025」を11月に開催。学識経験者と協働企画し、**基調講演・活動紹介・パネルディスカッションやワークショップ等を通じて里山の自然・文化の価値や課題を共有**。併せて芸人による里山トークや、展示等の企画と組み合わせ、**里山の楽しさを入口とした関心の喚起を図った。**カワセミハウスを含む新規団体の参画により**延べ1,061人**が来場。さらに23日間の**「里山サミットWEEK」として巡回展示や関連イベントを実施**。里山の自然・文化を継承に向けた連携の基盤を構築した。都や関係市の広報媒体への掲載やイベント出展等、多面的で継続的な広報により認知拡大と幅広い来場促進を図った。

地域性に合わせたきめ細やかな対応 － 桜ヶ丘公園パークミーティング

NEW 地元の小中学校をサクラでつなぐ

９月に行ったパークミーティングに、多摩商工会議所と地元の小学校・中学校が参加した。**学校関係者から「校内のサクラが枯れても補植しない」との意見が出た。**これを受け、公園がこれまで多摩商工会議所と協働で推進してきた「多摩桜プロジェクト」を学習の場で活用できないかと提案を行った。その結果、**小中学校の協働による園内へのサクラの植樹とプランターへの種まきにつながった。**

植樹後の記念撮影（中学生）

小学生による種まき

Update 地域団体をつないで課題解決

12月に行ったパークミーティングに、コミュニティー会館、市民団体、小学校等が参加した。公園から「さくらまつり」イベントの説明をしたところ、参加協力や集客アイディア等の声をいただいた。また、小学校からは公園が材料を提供している**竹炭づくりにおいて「指導者が不足している」との相談**があった。参加者から**指導者候補の情報提供が出る等、地域団体をつなぎ、課題解決に寄与した。**

６団体８人が参加

市立公園との連携による２日連続の周遊イベント

Update 公園から公園へ、春をめぐる２日間 － 多摩丘陵さくらまつり

２日連続企画「多摩丘陵さくらまつり」を４月に実施。市内公園との連携による来園機会拡大と回遊性向上を目的に、１日目は関係者と協議を重ね市立多摩中央公園で実施。２日目は桜ヶ丘公園を会場として、展示・体験・ラリー等９コンテンツ、竹灯籠ライトアップ、オリジナル装飾ベンチのお披露目、多摩桜プロジェクトの映像上映等を実施。**２日間計来場者約1,600人、SNS約6,000インプレッションを獲得**、公園間の連携による来園促進の効果があった。

多摩中央公園で丘陵地公園をPR

桜ヶ丘公園のサクラと記念撮影

ホタルを中心に自然環境の保全と学びの取り組み

Update ホタルを守る取り組み

ホタルを保全するには、エサであるカワニナの生息環境を保全することが重要となる。**カワニナを保全**するにはエサになる珪藻類を育成する必要がある。整備計画を見直し、**水路に珪藻類が生えやすい明るい環境づくり**等を行った。あわせて、**夏季の観察に備えた環境整備と、保全活動の啓発のため解説サインを設置した。**

水路前の藪を刈り、照度と見通しを確保

Update ホタルがたくさん見られる観察会

水辺環境における生態系の多様性、保全活動への理解促進を目的にホタル観察会を実施した。事前の**モニタリング調査に基づき観察会の日程を決めた**ところ、今年度の**ホタルの最大発光頭数日と一致**した。観察前の室内解説と現地観察の組み合わせにより、保全活動の重要性を理解していただき、**満足度100％**を得た。

クイズ形式解説が子ども達に好評

当日は今期最高の約20頭が発光